

景況レポート 2月

2月の県内景況は、一部の業種で好転するものの、全体では前月に比べ低調に推移。景気回復を期待する中、人手不足や原料価格の高騰等が懸念材料となっている。

情報連絡員による平成30年2月の県内中小企業の景況は、業界全体として「好況」は9.0%（前月比-4.0）となっており、「横這い」は33.9%（同+2.4）、「低調」とするところが57.1%（同+1.6）、業界全体の「景況感DI」は-48.2%（同-5.6）となっています。

1. 全産業の項目別前年同月比DI値の動き

◇「在庫数量」「資金繰り」「設備操業度」の3項目が前月と比較して好転しています。

2. 業種別の「業界の景況」

◇前年同月と比較して、繊維製品製造業、鉄工機械製造業が「快晴」または「晴れ」、木材木製品製造業、卸売業、サービス業が「曇り」または「薄曇」、その他の業種は「大雨」または「雨」となっています。

◇来月の見通しは、好転、やや好転の見込みとの回答が、21.4%（前月比+8.4）と増加しております（好転の回答1件、やや好転の回答11件）（製造業5、非製造業7）。一方、変わらないが、60.8%（前月比-2.2）と減少しております。また、やや悪化、悪化の見込みも、17.8%（前月比-6.2）と減少しております。

平成30年2月の景況について、情報連絡員からの報告は以下のとおりです。（回収率93.3%）

項目別DI 業種区分	売上高		販売価格		収益状況		資金繰り		雇用人員		業界の景況	
	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
食料品製造	-57.14	-42.86	0.00	0.00	-42.86	-42.86	-14.29	-14.29	-14.29	0.00	-28.57	-42.86
繊維製品製造	-33.33	33.33	0.00	-33.33	-33.33	33.33	-33.33	33.33	0.00	-33.33	-33.33	33.33
木材木製品製造	-75.00	-75.00	50.00	0.00	-50.00	-50.00	-25.00	-25.00	0.00	0.00	-50.00	-25.00
鉄工機械製造	0.00	0.00	0.00	-20.00	0.00	0.00	-20.00	0.00	-20.00	-40.00	0.00	20.00
その他の製造	16.67	-16.67	0.00	16.67	-33.33	-33.33	-33.33	-33.33	-16.67	0.00	-33.33	-50.00
卸売業	-50.00	25.00	0.00	0.00	-25.00	0.00	0.00	-25.00	0.00	-25.00	-25.00	0.00
小売業	22.22	-33.33	33.33	-11.11	-22.22	-33.33	-33.33	-22.22	0.00	-22.22	-11.11	-44.44
商店街	-50.00	-50.00	-33.33	-16.67	-50.00	-16.67	-33.33	-33.33	0.00	0.00	-50.00	-33.33
サービス業	25.00	-50.00	0.00	25.00	0.00	0.00	-25.00	-25.00	0.00	0.00	0.00	-25.00
建設業	0.00	-100.00	0.00	0.00	0.00	-60.00	0.00	-40.00	0.00	-20.00	0.00	-40.00
運輸業	33.33	-33.33	0.00	0.00	0.00	-66.67	0.00	-33.33	-33.33	-66.67	0.00	-66.67

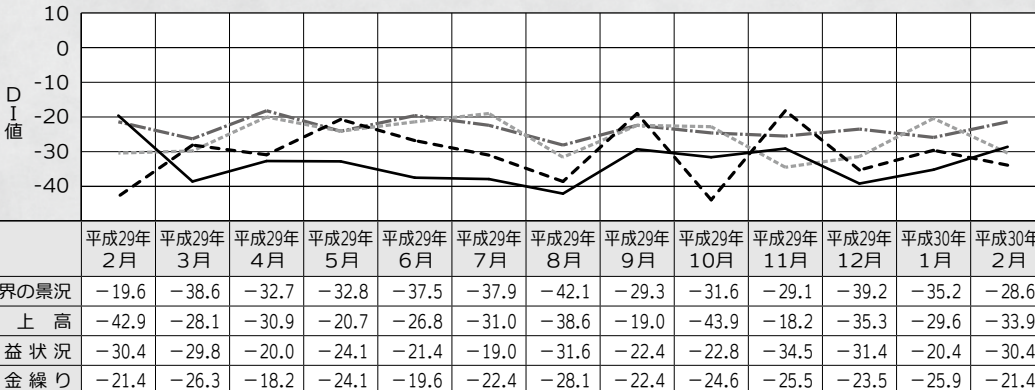
天気図の見方

各景況項目について「増加」（または「好転」）業種割合から「減少」（または「悪化」）業種割合を差し引いた値(D・I値)をもとに作成。その基準は下表のとおりである。

D・I値基準値

- 快晴 30以上
- はれ 10~30未満
- うすぐもり -10~10未満
- くもり -30~-10未満
- 雨 -50~-30未満
- 大雨 -50未満

業界の景気動向（前年同月比）全業種 DI 値（平成29年2月~平成30年2月）



食料品製造業

<漬物>

生野菜の価格が高騰し、浅漬けやキムチを製造する企業は大変厳しい状況にある。

<パン>

業界では人手不足が問題化している。

<味噌醤油>

味噌・醤油の主原料である加工米や海外に依存している小麦の価格が上昇するとの情報がある。また、東北地方の米所では、国内産加工米の作況指数の低下等の問題が出ている。小麦は、県産品の供給が需要量に及ばず県外品を使用しつつも、麺類やパンへの供給が多く、安定供給の外国産を使用せざるを得ない。味噌・醤油の出荷量は低迷が続いている一方、甘酒の出荷量が順調に伸びている。

<菓子>

原材料の豆類が大幅に上がっている。手の打ちようがない状況である。

<酒造>

特定名称酒の伸びが好調であり、特に純米吟醸が好調である。本醸造、普通酒は落ちて歯止めが利かない状況である。輸出も思ったほど伸びておらず、微増となっている。これは原子力災害による輸入禁止措置を実施している国がまだあるためと思われる。早めの対応を期待している。

<食品団地>

寒さによる影響等で原材料確保が厳しい状況である。また、物流面による影響も始めている。今後は原材料の高騰等で、収益に影響が出てくる見通しで難しい状況が続いている。

繊維工業

<ニット>

春夏物、特に梅春物の生産・納品で忙しい状況である。

木材・木製品製造業

<製材業>

原木について、スギ丸太の出材は順調である。また、アカマツも出材が増えてきた。ヒノキは出材が増えていないが、大手工場の引き合いが強く強基調を保っている。製材品について、県内向けは復興関連の荷動きが落ち着き、地元需要も春先まで鈍い状態が続くと見られる。県外向けは、昨年末と比較し落ち着いたが、一定量は維持されている。米材から需要が移ったヒノキ土台は引き合いが増加した。

<外材輸入>

春先に向け不需用期でもあり、荷動きは非常に悪い。

紙・紙加工品

<紙器・段ボール箱>

現在、段ボール原紙の需要が伸びている。百貨店やスーパーも今後ネット販売に本腰を入れていくこともあって、さらなる需要拡大が期待される。

印刷

<印刷業>

各社でバラツキはあるが、年度末に向けた受注で、

生産稼働が上向きになりつつあるよう。

窯業・土石製品製造業

<碎石>

(県北地区)

- | | | |
|------------|-------|-------|
| 1. 当月売上数量 | 前月比 | 約2%増 |
| 2. " | 昨年同月比 | 約18%減 |
| 3. 本年度売上数量 | 昨年対比 | 約11%減 |
| 4. 現状・現状 | | |

一部の公共工事が終了し、2月は運搬日も少なかったため出荷が伸びなかった。

<生コン>

平成30年2月の組合員生コン出荷数量は、132,934m³と対前年同月比+4.8%。出荷数量の内訳は、民需が対前年同月比+23.6%、官公需が-7.0%であった。

○民需の動向

対前年同月比 +23.6%

対前年同月比増加地区

県北地区：+9.3% 市内病院、上保原ショッピングセンター、米飯工場新築工事等

県中地区：+51.1% マンション新築工事、工場新築工事等

白河地区：+31.0% 工場・店舗建設工事等

いわき地区：+51.8% ショッピングモール建設工事、住宅新築工事等

相双地区：+5.5% 広野火発石炭貯蔵設備建築工事等

対前年同月比減少地区

会津地区：-23.3% 本名ダム工事等

○官公需の動向

対前年同月比 -7.0%

対前年同月比増加地区

相双地区：+16.1% ふたば未来学園体育施設棟、海岸復旧工事等

対前年同月比減少地区

県北地区：-23.5% 桑折高架橋下部工工事、伊達市役所本庁舎増築工事等

県中地区：-38.2% 東部幹線橋梁下部工事、西田学園整備工事等

白河地区：-39.0% 公共土木災害復旧工事等

いわき地区：-15.5% 港湾災害復旧、市内病院新築工事等

会津地区：-6.5% 会津美里町役場新築工事等

鉄鋼・金属

<鉄工工業>

(県中地区)

鉄骨加工業者は忙しいが、元請（建設会社）がそれほど忙しくない状況のため、請負金額が低くなりがちとの話が出ている。

一般機器

<各種プラント機器>

売上が前月比で50%と減少したが、前年同月比に於いては5%増とほぼ前年並みとなっている。累計においても、前年比96.5%と、前年並みに近づいてきている状況である。

卸 売 業

<卸売業>

2月期においては、例年以上に寒さが厳しかったため、灯油等石油製品の売上は概ね順調。建築資材については、引き続き需要が下り坂にあり、前年比を下回る事業所が増えてきた。この傾向が何処まで続くのか警戒感を強めている。人手不足については、やや落ち着いてきた感がある。また、業種や規模によって深刻度に幅があるようだ。共通して言えることは、この先の景気の動向に皆が注目しているということ。復興需要に陰りが見える中、それに代わる売上の確保に向けて努力しているところである。

<再生資源>

2月も古紙の市中発生は低調で、古紙価格もさらに下落した。古紙輸出については、特に雑誌古紙が難しい状況になっている。鉄スクラップは、高値で安定しているが、2月後半は海外市況の反騰から様子見ムードで展開。

<米麦事業>

米穀の販売単価は昨年より上り、売上高は増えた。

小 売 業

<共同店舗>

(〇ショッピングセンター)

飲食店は引き続き好調だったものの、物販は依然として厳しい。吊るし雛のイベントで来店客数は、増加したものの前年も同様のイベントを実施しており、著しい効果が見えなかった。次月は、人が動く時期であるため新生活特需に期待したい。

<石油>

2月中旬以降、原油価格の値下がりによって市場も下落傾向となっている。しかし、灯油については、長引く寒波の影響で在庫が減少し、価格についてもほぼ前月並みで推移している。

<水産物>

荒れた天候の日が多く、品物の入荷が少なかった。全体的にお客さんの購買意欲も低く、飲食、旅館業へ納品している店でも落ち込んだ。

<青果>

先月から続く単価の高騰は依然として継続している。来年の同月にどのような反動がでるか心配である。下旬あたりから部分的に単価の高騰が落ち着きを見せる野菜もでてきたので来月も少しでも取扱が増加することに期待したい。

<家電>

3月、4月は各地での合同展示会、個展での売上増に期待したい。

商 店 街

<福島市>

雪の日が多かった。アーケードがあらうが無かるうが、これだけ寒く、天候が悪いと必然的に歩行者も減ってしまう。暖かくなり桜が咲くまでに観光客の皆様をお迎えする準備を整えなければならない。

<郡山市>

2月下旬から百貨店の催事が始まったが、出だしはかなり鈍かったよう。月末からは順調に回復しているようで、来月には期待したい。

<南相馬市>

商店街はこれといったイベントもなく低調。栄町恒例の「ナイトばぎーる」の日ばかりは、賑わいを見せている。今後、知恵を絞ったイベントを作っていきたいと、個店の努力だけでは厳しい時代になっている。

<会津若松市>

季節商品に関してはバーゲンシーズン後半に入り、動きはあった。天候に左右される日が続き、売り上げにも波があった。アーケード工事進み、屋根がかかったこととお客様からは好評の声をいただいている。

<いわき市>

1月と同様、例年に比べ寒い日が続き、商店街を歩く人も少ない日が続いた。バレンタインなどのイベントがあるとお客様の動きがあるものの、終わればいつも通りに。年々人通りは減っており、店舗数も減少している。大型ショッピングモールの開店前に、ライバルとなる郊外のお店では対策を講じているが今の我々には何も無いのが現状。

サービスマ

<旅館業>

(土湯温泉)

2月も例年より寒く、降雪が多かったので客足の出が悪い月となった。また、昨年同様に平日限定でお得な宿泊プラン等を販売するも例年より実績が伸び悩んでいる。観光が広域化する中で、ひとつの観光地だけで誘客宣伝するには限界がきているのではと感じている。

<理容業>

寒い日が多かったため、客数が少ない日が多かった。どの方も同じよう。後半になり、やっと年末に調髪したお客様が来店し始まったが、それでも例年に比べ低調であった。高料金のメニューは売れ行きが鈍い。景気が上向きだというが、まだまだ理容の方には届かないようだ。3月は卒入学や入社等の準備で少しは忙しくなると思う。業界においては、安売店の乱立と後継者不足も悩みの種となっている。

建 設 業

<建設業>

(県南地区)

土木工事は若干増加傾向にあるが、前年度に比べて減少している。公共建築工事は物件が少なく低迷したままで、民間建築工事も減少している。

<管工事>

前月比では、給水設備申請が増加し、排水設備申請が減少している。一方、前年同月累計対比では、給水・排水設備申請とも減少している。

<専門工事>

業務的には静かな一か月だったが、仕事が下り坂をひた走っているのは業界全体で変わらない。復興も一段落ついたことになっているが、箱モノを中心に先行きは見えず、予算を消化していても『興』の文字は見えてこない。放射線のリスクを考えないエリア外の業者が、仕事があると誤解して一般の仕事に入り込もうとしているが、それを止められないのが現状。それでもこのエリアは他の地域よりも良いエリアなのかもしれない。根本的な『なぜ儲からないのか?』と言う問題を解決しない限り、このジレンマは継続するのか

もしれない。

運 輸 業

<トラック団地>

(県北地区)

運送業界は認可制から許可制となったことや受注減少等により競争過多となっており収益確保が厳しく

なってきた。更には、製造業とは違いサービス業であるため労働時間短縮対応も難しく人材確保が厳しさを増している。

<ハイヤータクシー>

例年2月は動きが少なく減少傾向となるが、今年は1月が低調だったために前月比で不変となった。